

2020 | 春 | あんず

K y o r i n M a g a z i n e A n z u

vol. 3



キャンパスカレンダー 2019.11-2020.4

あんず

2020 春 | vol.3 |

Contents

- 03 …… キャンパスカレンダー
- 04 …… 2020年度 ご挨拶
- 05 …… 新型コロナウイルス感染症報告
- 06 …… 2020年度 事業計画
- 07 …… 2020年度 予算について
- 08 …… 人事情報
- 09 …… 学生情報
- 10 …… 学部情報
- 12 …… 2020年度Web版
オープンキャンパスの開催、
医学部付属病院
- 13 …… 文科省補助事業報告、
看護専門学校閉校
- 14 …… 新校地の整備進む
- 15 …… ご支援・ご寄付のお願い

「杏林大学」の名は、
中国に伝わる一つの故事に由来しています。

その昔、中国は廬山というところに董奉(とうほう)という
医師がいました。彼は人に尽くすために治療を行って
あえて治療代を受け取らず、その代わりに病気が治った
人には、記念として杏の苗を植えてもらいました。
そうして、いつしか10万余株の杏の木がうっそうと茂る
大きな林ができあがったといわれています。
この故事から後世、良医のことを杏林と呼ぶようになりました。
この故事に因んで名付けた杏林大学は、専門的知識や
技術にすぐれているだけでなく、立派な人格を持った良き
医師など社会に貢献することのできる良き職業人を育成
することを目指しています。



11月 三鷹キャンパスで白衣式を挙行。医学部
4年生103名が良医となることを誓いました



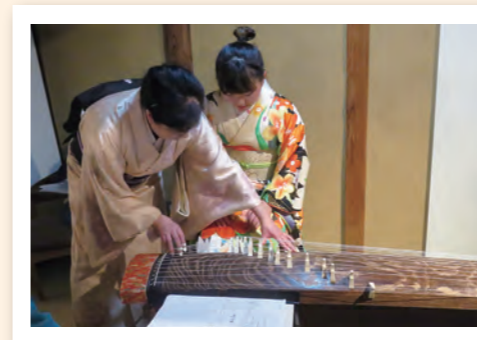
11月 学生広報スタッフの提案で、ナイトオープンキャンパスを井の頭
キャンパスで開催。約130名の高校生、保護者等が参加しました



12月 井の頭キャンパスでクリスマスをテーマに国際交流の集い
を開催。留学生、学生、教職員等93名が参加しました



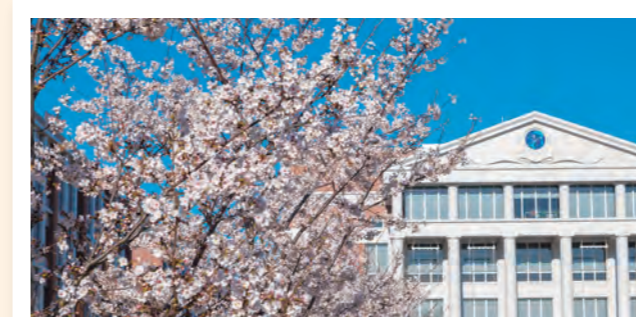
12月 看護専門学校生約70名が付属病院の病棟で
キャンドルサービスを行いました



1月 日本文化体験プログラムで留学生と在学生
36名が茶道、着付けなどを体験しました



2月 三菱地所レジデンス(株)と本学が産学連携協定を締結。
総合政策学部GCP履修生達が同社作成の防災ツールを外国
人向けに英訳し、活用を目指した協働を深めています



3月 学部生、院生1,201名が杏林大学を卒業しました

4月 学部生、院生1,390名が杏林大学に入学しました

2020年度 ご挨拶



理事長
松田 博青
Hiroharu Matsuda

新年度は私共も経験したことのない異例の形で迎えることになりました。新型コロナウイルスによる感染症の拡大で、卒業式に続いて入学式も開催を見合わせました。学生諸君にとっても思い出となる場だけに私共も残念に思っております。しかし、学業の場はさまざまな新たなツールや工夫を取り入れ確保してまいります。付属病院では新型コロナウイルスへの対応を続けています。最前線の医師や看護師ら医療関係者はもちろん、これを支援する事務部門も一丸となって過酷な状況の中で、それぞれの役割を果たしています。こうした時にこそ、私共は人々の健康を守っていくことが使命であり義務であると考えており、引き続き力を尽くしてまいります。こんな中であっても、大学を取り巻く環境は容赦なく厳しさを増しています。私共は、これからの社会はどう変わっていくのか、学園はこの変化にどう対応して行くべきなのか、皆様のご意見を伺いながら事業を進めて行きたいと考えております。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。



副理事長
松田 剛明
Takeaki Matsuda

今、世界は新型コロナウイルスとの闘いのさなかにあります。本学の付属病院は感染症の指定医療機関ではありませんが、2月にいち早く医師や看護師、薬剤師、臨床工学士など各分野で構成する「発熱対応・コロナウイルス感染症チーム」を立ち上げました。支援部門を含め、総力をあげて重症の患者さんを中心に治療などの対応に当たってまいりました。ウイルスとの闘いは長期化が予想されますが、医療の最後の砦として、引き続きその使命を果たしてまいります。奇しくも今年は本学が医学部を創設して50周年になります。病院に隣接する新校地では体育館に続いて医学部の新しい講義棟の建設も準備を進め、あわせて教育の充実も図ってまいります。保健学部、総合政策学部、外国語学部でも、時代の変化や社会の需要に応じるべく情報教育の導入など、教育改革を推進してまいります。新型コロナウイルスという見えない敵との闘いに打ち勝って、さらなる発展を目指してまいりますので、今年度も引き続きのご支援をお願い申し上げます。



学長
大瀧 純一
Junichi Otaki

新年度は教育の世界にあってもかつてない厳しい状況下でのスタートになりました。キャンパスでの授業開始の目途さえ立たない状況が続きました。私どもは遠隔授業などを取り入れ、教育の場を確保しています。新入生をはじめ学生諸君も、この経験を糧として未来への力とし、ぜひとも新しい成長につなげて欲しいと思います。今、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。入学選抜のやり方だけでなく、教育方法の改革は待たなしです。社会では、何を学んだかではなく、何ができるかが問われます。大学は時代が求める教育をし、激動の時代を乗り切っていかなければなりません。これに対応するため、今年度は時代に即したカリキュラムの改定を念頭にAI、データサイエンス分野の導入なども検討してまいります。建学の精神である「真善美の探究」を基に、課題発見能力や探求能力を備え、倫理感を持って人々に尽くせる人材の養成と、これらを通じて社会の健康を守る大学としての使命を果たしてまいりますので、ますますのご支援をお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症報告

早期の体制構築と総力戦で対応

病院長 市村 正一

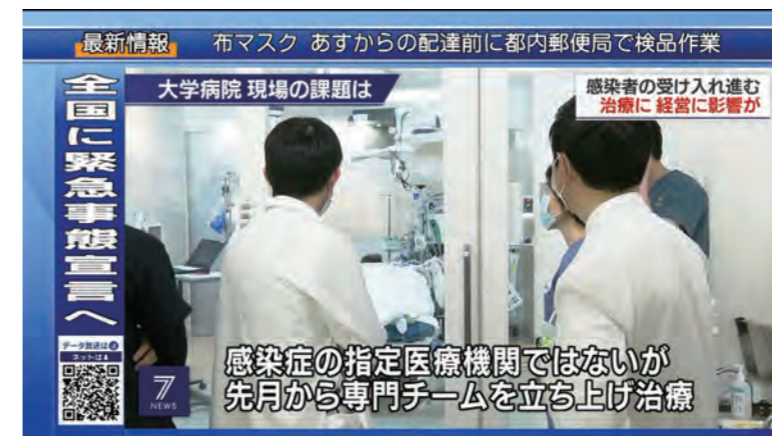


新型コロナウイルスがいまだ世界を席巻しています。当院も1月末に対策会議を開き、疑い症例への対応と共に、院内感染を防止する目的で対応マニュアルを作成しました。また感染症診療協力医療機関として、一般外来患者さんとは動線を分けて簡易空調設備を設けるなど改装した「特別発熱外来」を2月14日から外来棟に発足させました。ほぼ同時期に、感染症科と呼吸器内科を中心に外科系も参加したコロナ診療チームを立ち上げて外来と入院診療に対応し、横浜のクルーズ船からの患者さんも受け入れました。日中は発熱外来、夜間休日は一、二次救急外来で対応し、一方、救急の重傷者は高度救急救命科で対応するなど役割分担してまいりました。また、2月25日からは院内のPCR検査を開始しております。5月第2週まで、発熱外来では保健所や近隣の医療機関からの紹介患者を中心に約700名を診察し、入院も主に発熱外来からの約40名を治療しております。当院は早期に発熱外来を開始し、疑い症例を積極的に診察、治療したことにより地域での集団発生の予防に貢献できたものと考えております。またこの間、病院関係以外の学園職員等も診療以外での補助に変わり、この難敵な感染症に杏林学園が一丸となって迅速に対応できたことを誇りに思っております。この感染症とは長い闘いになりますが、今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

パンデミック対応と今後への備え

感染症科 診療科長 准教授
感染対策室長 倉井 大輔

未知の感染症である新型コロナウイルスは、治療や感染対策に明確な正解がありません。不確かな情報の蔓延で、職員に摸たる不安が広がる事が危惧されました。そのため、最新の情報や感染対策などの更新が必要な情報は、職員だけアクセス可能なサイトと電子カルテにアップしました。パンデミックに備え職員の休みやすい環境を整備し、疑い患者に対応する職員を限定することにしました。診療には、2月に発足した内科・外科系から構成された医師とHCUなど特定部署の看護師が中心にあたりました。この難局には、スキルの高い診療チームと病院全体の協力体制が必要だと考えました。実際に、2か月後の流行期に経験を積んだ診療チームが力を発揮してくれました。第一波の感染ピークは、オール杏林の体制でどうにか乗り切りました。今回の教訓として、医療物資の不足に備えた備蓄とその有効利用、感染対策としての診療・会議・面会などが遠隔で行えるシステムの構築が急務だと思われます。新型コロナウイルスを恐れ過ぎず、侮らず堅実な対応を続けて行くことが肝要だと思っています。



当院の取組みはNHKニュースなどで紹介された

国内外から 医療物資ご支援の御礼

近隣の方々や企業、交流協定病院の中国雲南省第一人民病院など、様々な方から御支援をいただいています。医療用マスク(N95)や防護服など物資のご寄付に篤く御礼申し上げます。



2020年度 事業計画（重点事業）

学園事務局

重点事業 (1) 教育の質向上に向けた取り組み (2) 研究体制の強化 (3) 優秀な学生確保 (4) キャリア支援の向上 (5) 情報基盤の整備 (6) 地域交流活動 (7) 医療体制 (8) 学園運営体制の整備 (9) 財務体質の強化

重点事業・項目	具体的施策
1 教育の質向上に向けた取り組み	
<医学部> ・自己点検に基づく医学教育体制の構築 ・新たな臨床-基礎医学融合型カリキュラムの開発	・自己点検において「改善に向けた計画」とした内容の実施体制を構築 ・学生の学習意欲向上、医学教育への円滑導入のためのカリキュラム開発
<保健学部> ・カリキュラムの評価検討 ・高い倫理観と社会的責任遂行力の育成	・学年進行と共に理解が深まる体系的編成、課題解決能力が身につく編成 ・各学科が臨床現場との連携を更に密にする
<総合政策学部> ・情報系プログラムの新設等現行カリキュラムの刷新と定員増に向けた準備	・2022年度を目標に情報化の進展を社会科学の観点から教育内容に盛り込んだ情報系プログラムを新設、現行カリキュラムを刷新 ・グローバル・キャリア・プログラムの参加者選抜や留学方法の見直し
・グローバル教育の拡充に向けた検討	
<外国語学部> ・教学マネジメントの強化と内部質保証の推進 ・成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立	・点検・評価・改善のPDCAサイクルを有効に機能させる ・現行カリキュラムの成果測定を実施の上、点検・整備していく
<国際交流センター> ・グローバル人材育成事業の推進	・学生の海外留学・研修の促進、外国人留学生受入れのサポートを強化
<学生支援センター> ・高等教育の修学支援新制度への対応	・経済的に修学が困難な学生を支援する修学支援新制度について関係部署と連携し運用していく
<保健センター 三鷹・井の頭> ・心身の健康支援	・健康の保持増進を図り、健康診断、予防接種、感染症抗体検査及び保健に関する知識の普及・啓発等を実施
2 研究体制の強化	
<保健学部> ・博士課程への進学者数増加に向けた取り組み	・大学ホームページの研究に関する紹介を充実し、海外へ情報を発信
<医学研究科> ・研究体制の強化に向けた取り組み	・共同研究施設の効率的運用（管理体制の見直し）、各施設の充実化
<保健学研究科> ・大学院生の研究活動の促進を図るための支援	・セミナーや学術講演会を開催し、ロジカルシンキングをスキルアップ
<国際協力研究科> ・国際的交流の一段の促進	・海外大学・大学院との協定に基づく教員・院生の研修受入や共同研究
<研究推進センター> ・大学の特色を活かした全学的な研究の推進	・学部間連携を強化し、学際的な研究体制を全学的に構築
<男女共同参画推進室> ・女性・若手研究者の研究力向上のためのセミナー等の開催	・研究力向上に向け、セミナーを研究推進センターと共催
<図書館> ・施設・設備の整備と有効活用、ILLを活用した支援強化	・データベース、電子ジャーナル、電子ブック等の利用環境を整備
3 優秀な学生確保	
<入学センター> ・本学刊行物の充実、Web企画の有効活用により受験者・保護者及び高校教員へのアプローチを強化	・入試情報を明確に理解しやすいフォームに更新し、5月下旬の早期刊行を目指す
4 キャリア支援の向上	
<キャリアサポートセンター> ・キャリア教育・就職支援の見直し強化	・時代の流れや学生ニーズにあったキャリア支援を柔軟に見直し強化
5 情報基盤の整備	
<総合情報センター> ・セキュリティ対策	・セキュリティポリシー及びセキュリティ規程に関連した研修の実施
6 地域交流活動	
<地域交流推進室> ・連携自治体内における産学官連携活動の強化	・三鷹市・羽村市との連携活動の継続とともに武蔵野市との連携を強化 ・若手県内での教育活動の継続とともに対象を東北地方全域に拡大し杏林CCRC研究所を核とした地域志向研究を発展的に推進
7 医療体制	
<付属病院> ・地域と連携した特定機能病院としての役割の推進	・効率的な病院運営と継続的な診療内容の質的向上 ・医療安全の推進と病院の質的改善 ・職場勤務環境の改善 ・地域医療機関との連携推進 ・専門性の高い人材育成と適正な看護業務の推進
8 学園運営体制の整備	
・大学・病院を支える人材の確保・育成 ・働き方改革の促進 ・広報戦略の継続的再構築と先進技術の活用	・学園方針に沿った人材の確保 ・教職員の健康面へのサポート、事務部門の生産性向上のサポートを強化 ・建学の精神や目指す大学像、さまざまな活動の積極的発信などを軸に、大学のブランディング強化を進める
・病院公式ホームページの刷新	・利便性を追求し、最新情報や病院の強みなどを掲載した特定機能病院にふさわしい内容に改善 ・電子申請など各種ポータルサイト機能を順次搭載し、業務の効率化と経費の削減を目指す
・あんずネットの整備	
9 財務体質の強化	
・財政基盤の健全化	・中期財務計画の令和2年度目標値に近づけるよう収支改善に努める ・予算の管理及び効率的な運用に努め、安定した経営状態を確立

事業計画の詳細は、大学 HP「経営・財務情報」に掲載しています。

2020年度 予算について

■ 資金収支予算の概要

総資金収入は629.16億円、総資金支出は626.66億円の規模である。2019年度（決算見込）の繰越金は74.51億円。また、2020年度予算の繰越金は、65.47億円となり、繰越金が9.04億円の減少となる予算となった。

< 資金収支 >

科目	2020年度予算	2019年度予算
学生生徒等納付金収入	113.31	110.84
手数料収入	5.39	5.83
寄付金収入	4.92	4.60
補助金収入	19.55	20.96
資産売却収入	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	5.23	5.38
医療収入	384.83	369.28
受取利息・配当金収入	0.10	0.10
雑収入	3.89	4.46
借入金等収入	0.00	0.00
前受金収入	18.37	17.72
その他の収入	73.54	70.11
小計	629.16	609.31
資金収入調整勘定	△76.98	△74.67
前年度繰越支払資金	74.51	65.71
収入の部合計	626.69	600.34

科目	2020年度予算	2019年度予算
人件費支出	230.34	223.25
教育研究経費支出	30.06	31.07
医療経費支出	188.39	176.39
管理経費支出	28.64	27.46
借入金等返済支出	1.61	1.77
借入金等返済支出	9.94	9.94
施設関係支出	48.65	25.85
設備関係支出	15.97	43.35
資産運用支出	13.75	21.79
その他の支出	58.27	40.88
予備費	1.00	1.00
小計	626.66	602.79
資金支出調整勘定	△65.43	△70.74
翌年度繰越支払資金	65.47	68.29
支出の部合計	626.69	600.34

※百万円未満を切り捨て、合計額においては差異を生じる場合がある。

■ 事業活動収支予算の概要

事業活動収入計は538.48億円、事業活動支出計は532.70億円である。その結果、基本金組入前当年度収支差額は5.77億円の収入超過予算となった。

2019年度（決算見込）の前年度繰越収支差額は△846.66億円、2020年度（予算）の当年度収支差額は△41.32億円となり翌年度繰越収支差額は△887.90億円の予算となった。

< 事業活動収支 >

教育活動収支	科目	2020年度予算		2019年度予算			
		2020年度予算	2019年度予算	2020年度予算	2019年度予算		
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	113.31	110.84	113.31	110.84	
		手数料	5.39	5.83	5.39	5.83	
		寄付金	5.76	3.63	5.76	3.63	
		経常費等補助金	17.93	18.06	17.93	18.06	
		付随事業収入	5.23	5.38	5.23	5.38	
		医療収入	384.83	369.28	384.83	369.28	
		雑収入	3.89	4.46	3.89	4.46	
		ア) 教育活動収入計	536.37	517.51	536.37	517.51	
		事業支出の部	人件費	233.59	226.19	233.59	226.19
			教育研究経費	45.72	47.08	45.72	47.08
	医療経費		216.92	201.88	216.92	201.88	
		管理経費	33.60	32.72	33.60	32.72	
		徴収不能額等	0.01	0.01	0.01	0.01	
	イ) 教育活動支出計	529.86	507.88	529.86	507.88		
A) 教育活動収支差額		6.51	9.63	6.51	9.63		
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	0.10	0.10	0.10	0.10	
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00	0.00	0.00	
	ウ) 教育活動外収入計	0.10	0.10	0.10	0.10		
	事業支出の部	借入金等利息	1.61	1.77	1.61	1.77	
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00	0.00	0.00	
	エ) 教育活動外支出計	1.61	1.77	1.61	1.77		
B) 教育活動外収支差額		△1.51	△1.66	△1.51	△1.66		
経常収支差額 (A+B)		5.00	7.95	5.00	7.95		
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	0.00	0.00	0.00	0.00	
		その他の特別収入	2.00	4.15	2.00	4.15	
	オ) 特別収入計	2.00	4.15	2.00	4.15		
	事業支出の部	資産処分差額	0.23	2.74	0.23	2.74	
		その他の特別支出	0.00	0.00	0.00	0.00	
	カ) 特別支出計	0.23	2.74	0.23	2.74		
C) 特別収支差額		1.77	1.40	1.77	1.40		
D) [予備費]		1.00	1.00	1.00	1.00		
基本金組入前当年度収支差額 (A+B+C+D)		5.77	8.36	5.77	8.36		
基本金組入額		△47.10	△23.37	△47.10	△23.37		
当年度繰越収支差額		△41.32	△15.01	△41.32	△15.01		
前年度繰越収支差額		△846.66	△845.96	△846.66	△845.96		
基本金取崩額		0.08	4.96	0.08	4.96		
翌年度繰越収支差額		△887.90	△856.01	△887.90	△856.01		

事業活動収入計 (ア+ウ+オ)	538.48	521.76
事業活動支出計 (イ+エ+カ+予備費)	532.70	513.40
事業活動収支差額 (A+B+C+D)	5.77	8.36

※百万円未満を切り捨て、合計においては差異を生じる場合がある。

予算・決算の詳細は、大学 HP「経営・財務情報」に掲載しています。

人事情報

2020年度 杏林学園役員

役職	氏名	現職
理事長	松田 博青	学園長・大学名誉教授
副理事長	松田 剛明	大学教授
理事	大瀧 純一	大学長
理事	渡邊 卓	大学医学部長
理事	岡島 康友	大学保健学部長
理事	北島 勉	大学総合政策学部長
理事	坂本ロビン	大学外国語学部長
理事	市村 正一	大学教授 (付属病院長)
理事	田口 晴彦	大学教授 (保健学部長)
理事	内藤 高雄	大学教授 (総合政策学部長)
理事	岩本 和良	大学教授 (外国語学部長)
理事	小塩 節	フェリス女学院特別顧問・中央大学名誉教授
理事	鈴木 武夫	鶴岡学園理事長・北海道文教大学学長
理事	甲能 直幸	立正佼成会附属佼成病院病院長
理事	鈴木典比古	公立大学法人国際教養大学理事長・学長

役職	氏名	現職
監事	則定 衛	弁護士・元東京高等検察庁検事長・元法務事務次官
監事	石井 道遠	(株)東日本銀行特別顧問、元国税庁長官

2020年度 就任教授

学部	学科等	氏名	職位
医学部	呼吸器内科学	石井 晴之	教授
医学部	整形外科	細金 直文	教授
医学部	リハビリテーション医学	山田 深	教授
医学部	脳神経内科学	市川弥生子	臨床教授
医学部	高齢医学	大荷 満生	臨床教授
医学部	形成外科学	尾崎 峰	臨床教授
医学部	医学教育学	富田 泰彦	臨床教授
医学部	医学教育学	矢島 知治	臨床教授
医学部	感染症学	大崎 敬子	研究教授
医学部	感染症学	花輪 智子	研究教授
医学部	病理学	藤原 正親	研究教授
保健学部	臨床工学科	岩橋 桜子	教授
保健学部	臨床工学科	中島 章夫	教授
保健学部	看護学科 看護学専攻	岡 澄子	教授
保健学部	看護学科 看護養護教育学専攻	荒添 美紀	教授
総合政策学部	総合政策学科	木暮健太郎	教授
外国語学部	英語学科	倉林 秀男	教授
外国語学部	観光交流文化学科	小堀 貴亮	教授
外国語学部	中国語学科	鄭 英淑	教授

2020年度 大学役職者

役職	氏名	役職	氏名
学長	大瀧 純一	教務部長 (医学部)	大西 宏明
学部長 (医学部)	渡邊 卓	教務部長 (保健学部)	田口 晴彦
学部長補佐 (医学部)	平形 明人	教務部長 (総合政策学部)	内藤 高雄
学部長 (保健学部)	岡島 康友	教務部長 (外国語学部)	岩本 和良
学部長 (総合政策学部)	北島 勉	学生部長 (医学部)	渡邊衛一郎
学部長 (外国語学部)	坂本ロビン	学生部長 (保健学部)	望月 秀樹
医学研究科長	渡邊 卓	学生部長 (総合政策学部)	渡辺 剛
保健学研究科長	岡島 康友	学生部長 (外国語学部)	志村 良浩
国際協力研究科長	坂本ロビン	医学研究科教務担当	大木 紫
医学部付属病院長	市村 正一	保健学研究科教務担当	八並 光信
付属図書館長	櫻井 裕之	国際協力研究科教務担当 (国際開発)	西 孝
医学分館長	櫻井 裕之	国際協力研究科教務担当 (国際文化交流)	荒川みどり
井の頭分館長	荒川みどり	国際協力研究科教務担当 (国際医療協力)	北島 勉
キャリアサポートセンター長	平石 富男	国際協力研究科教務担当 (国際言語コミュニケーション)	宮首 弘子
国際交流センター長	稲垣 大輔	国際協力研究科教務担当 (グローバルコミュニケーション)	荒川みどり
入学センター長	岡田 洋二	国際協力研究科教務担当 (開発問題)	西 孝
学生支援センター長	望月 秀樹		
研究推進センター長	大木 紫		
井の頭保健センター長	四倉 正之		
三鷹保健センター長	岡本 晋		
地域交流推進室長	古本 泰之		

2020年度 名誉教授

学部	学科	氏名	職位
保健学部	臨床検査技術学科	石井 和夫	名誉教授
外国語学部	英語学科	黒田 有子	名誉教授

2019年度 退任教授

学部	学科等	氏名
医学部	呼吸器内科学	滝澤 始
医学部	循環器内科学	佐藤 徹
医学部	医学教育学	赤木美智男
保健学部	臨床検査技術学科	森田 耕司
保健学部	臨床工学科	四倉 正之
保健学部	看護学科 看護養護教育学専攻	太田ひろみ
総合政策学部	総合政策学科	小野田欣也
総合政策学部	総合政策学科	松田 和晃
外国語学部	英語学科	黒田 有子

学生情報

2020年4月 現在

在学生数

	学部	定員	学生数
学部	医学部	700	730
	保健学部	2,664	2,714
	総合政策学部	902	993
	外国語学部	1,024	1,051
学部合計		5,290	5,488
大学院	研究科		計
	医学研究科	136	74
	保健学研究科	46	38
	国際協力研究科	110	42
大学院合計		292	154
総計		5,582	5,642

2019年度 学位授与者数

	学部	2019年度卒業学位授与者数	累計学位授与数
学部	医学部	96	4,322
	保健学部	558	9,175
	総合政策学部	212	10,264
	外国語学部	221	8,938
学部合計		1,087	32,699
大学院	研究科	学位授与数	累計学位授与数
	医学研究科	15	1,084
	保健学研究科	11	398
	国際協力研究科	25	1,086
大学院合計		51	2,568
看護専門学校		92	3,988
総計		1,230	39,255

学園長・学長賞 授与者

医学部	高桑千絵子	金森 徹	石見 航平
保健学部	島田 和幸	春日 宏太	田嶋 紗奈
総合政策学部	網谷 紀香	井上 瑠美	福田 健洋
外国語学部	松倉 佳穂	大原 健泰	小川 涼夏
看護専門学校	池田 香帆	樋口由希恵	

2020年度 入学試験志願者状況

学部	学科	専攻	志願者数
医学部	医学科		3,385
		臨床検査技術学科	1,097
		健康福祉学科	212
	看護学科	看護学専攻	1,917
		看護養護教育学専攻	559
	保健学部	臨床工学科	444
		救急救命学科	231
		理学療法学科	1,056
		作業療法学科	307
		診療放射線技術学科	941
		臨床心理学科	558
		小計	7,322
	総合政策学部	総合政策学科	1,120
企業経営学科		803	
小計		1,923	
外国語学部	英語学科	1,038	
	観光交流文化学科	876	
	中国語学科	506	
	小計	2,420	
総計			15,050

2020年度 入学者数

	学部	学生数
学部	医学部	115
	保健学部	719
	総合政策学部	252
	外国語学部	268
学部合計		1,354
大学院	研究科	学生数
	医学研究科	10
	保健学研究科	15
	国際協力研究科	11
大学院合計		36
総計		1,390

2019年度 国家試験結果

【医学部 医師国家試験】		
	合格率	全国平均
新卒者	96.9%	94.9%
既卒者含む	94.1%	92.1%

【保健学部 国家試験】 *既卒含めた全国平均

国家試験	合格率 (新卒者)	全国平均
臨床検査技師	90.2%	83.1%
社会福祉士	84.6%	29.3%*
看護師	100%	94.7%
保健師	100%	96.3%
助産師	100%	99.5%
臨床工学技士	100%	82.1%*
救急救命士	93.6%	87.0%*
理学療法士	100%	93.2%
作業療法士	100%	94.2%
診療放射線技師	98.2%	92.2%

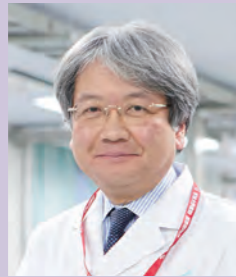
【医学部付属看護専門学校 看護師国家試験】

	合格率	全国平均
新卒者	90.2%	94.7%

2019年度 就職状況

学部	学科	就職率
総合政策学部	総合政策学科	99.1%
	企業経営学科	100%
	英語学科	96.6%
外国語学部	観光交流文化学科	100%
	中国語学科	100%

医学部



医学部長
大学院医学研究科長
渡邊 卓

杏林大学医学部創立50周年を迎えて

今年度は新型コロナウイルス感染症のため入学式が中止となったばかりではなく、4月、5月の医学部全学年の講義、実習等が自宅学習となるなど、異例のスタートとなりました。感染蔓延の早期収束を願うばかりです。

予期せぬ事態に直面した今年度ではありますが、当医学部にとって今年度は創立50周年の節目にあたります。折しも、今年4月1日付で、日本医学教育評価機構より、当医学部の医学教育プログラムが世界医学教育連盟(WFME)の定めるグローバルスタンダードに適合しているとの認定を受けることができました。一方、三鷹キャンパスでは医学部教育に関連する最新の設備を備えた新医学教育棟の建設が今年度中に開始される予定となっております。

以上、次なる50年に向けて、当医学部の教育環境が着々と整備されつつありますことをここに報告申し上げます。今後とも、皆様のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

医学部の教育が国際評価基準に認定

医学部では、世界医学教育連盟(WFME)の定める国際的な評価基準に則った医学教育の質保証を目指し、かねてより教育体制の整備を進めて参りました。その一環として、臨床実習期間の延長や実習内容の充実を図った新たなカリキュラムを2016年度の入学生より導入致しました。

2018年度には、この新カリキュラムに基づき、日本医学教育評価機構による「医学教育分野別評価」を受審し、今年4月に認定を受けることができました。私立医科大学31校中、8番目の認定校となりました。



左:医学教育分野別評価 認定証 右:臨床実習の様子

保健学部



保健学部長
大学院保健学研究科長
岡島 康友

チームの一員として頼られるプロフェッショナルの育成を目指して

保健学部では保健、医療、福祉領域で求められる多くのプロフェッショナルを養成しています。1つの学部でこのように多くの専門領域を網羅している大学で学ぶことのメリットは大きいと思います。実際、当学部の教育は複数の学科の教員により行われ、学際的な学修を可能としています。

お陰様で当学部は志望学問分野別大学ランキングで上位にランクされております。これは教職員の努力に加えて、卒業生の活躍によるところが大きいと考えます。

今年度は新型コロナウイルス禍にありますが、これを克服すべく、教職員一丸の対応、在学生の学習継続、卒業生の更なる活躍、そして何よりも保護者の皆様には今後ともご支援をお願い申し上げます。

看護・介護分野で武蔵野市との連携促進へ

看護学科では、武蔵野市の介護・看護や健康事業の支援に取り組んでいます。市が主催する「ケアリンピック武蔵野」には、2016年から教員や学生が参加し、介護・看護職者間の情報交換・スキルの研鑽、および市民との交流を支援しています。また、市民が健康や介護、育児の相談ができる場である「iki(いき)なまちかど保健室」では、教員と学生が訪問し、体操やレクリエーションを通して地域住民の健康づくりをサポートしています。

2020年1月には、杏林大学と武蔵野市で包括連携協定を締結したことを機に、保健学部をはじめとし、今後さらなる連携強化、地域課題の解決を支援していきます。



「iki(いき)なまちかど保健室」での活動の様子

総合政策学部



総合政策学部長
北島 勉

学生が主体的に学べる教育体制を

4月より総合政策学部長を拝命いたしました。どうぞ宜しくお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大により、総合政策学部では、春学期は教室での授業ではなく、双方向のオンライン授業を実施することにいたしました。通常の授業とは異なりますが、学生一人ひとりが主体的に学ぶことができる機会を提供していきたいと考えております。

在学生、特に1年生は、このような形で学期が進んでしまうことに不安を覚えていることと思います。教員と学生が、また学生同士がコミュニケーションを重ねながら、この厳しい状況を乗り切っていきたいと考えております。

引き続き、本学部の教育に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

完成年度を迎えたGCP(グローバル・キャリア・プログラム)

2016年にスタートしたGCPは、国際社会で活躍できる人材の育成を目的に、1年次で基礎英語力をつけ、2年次で海外留学を経験し、3年次以降で経済や国際関係などの知識やプレゼンテーション力を英語で学ぶプログラムです。2020年3月には1期生20人が卒業しました。

北島学部長は、「履修生の多くは、英語力の向上に加え、世界観も広がり、新しいことに積極的にチャレンジできるようになりました。今後は語学だけでなく、専門科目も学べる交換留学先を増やしていきます。将来的には5大陸の大学から交換留学生を迎え、国際色豊かなプログラムにしていきたい」と語っています。



【履修生】
2019年度:1年~4年生 計134人
2020年度:1年~4年生 計159人

外国語学部



外国語学部長
大学院国際協力研究科長
坂本ロビン

雨ニモマケズ 風ニモマケズ

90年前に書かれた詩には今日の私達にも通じる大切なメッセージがあります。宮沢賢治は、誰もが他の人々に手を差し伸べることができる社会に向かうために、努力することを決してあきらめないことを望んでいました。

外国語学部では全学生が中国語を学びます。中国の様々な大学などから学びに来ている沢山の留学生もいます。互いに相手の言葉を学びながら社会問題を解決するために毎日頑張っています。はっきりとした答えがない問題に対してどのように自分が解決のために活躍できるかを考えています。外国語学部では不安定な世情の時にも負けることなく、健全な社会を守る人になれる学生を育てます。

観光交流文化学科生が 八王子市に観光資源の活用について提案

古本泰之准教授のゼミでは2018年度から2年間、大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」の採択を受け、市内の観光資源の活用に関する調査を行ってきました。これは、自治体が行っている地域の観光振興策を支援する活動です。

2020年1月には7名の学生が、市内の織物工場や史跡等を巡るモニターツアーを企画・実施し、外国人参加者に事後調査を行いました。その結果、伝統文化やものづくり体験等が観光資源として活用できることを2月の「学生企画事業補助金成果報告会」で発表し、実現の可能性がある内容との評価を受けました。



上:学生主導のモニターツアー 下:報告会で成果を発表

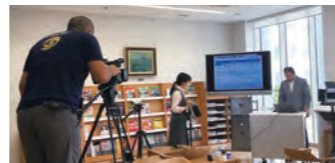
2020年度Web版オープンキャンパスの開催

例年、6月頃から各学部でオープンキャンパスが開始されますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催は未定となっています。

その代替として、入学センターでは、各学部の紹介動画を配信します。保健学部、総合政策学部、外国語学部の学部・学科の取組みや入試説明などを大学ホームページの入試ガイドなどで公開していく予定です。

今後の予定については、ホームページをご覧ください。

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/nyugaku/>



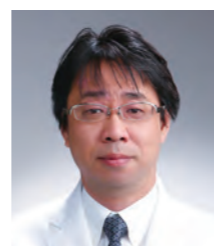
医学部付属病院

難病の炎症性腸疾患 消化器内科久松教授が厚生労働省の研究班長に

4月に当院消化器内科久松理一教授が、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業の「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」の代表者に就任しました。

炎症性腸疾患(IBD)はクローン病と潰瘍性大腸炎に分類され、それぞれ全国で約7万人、約22万人の患者数が推定されており、増加傾向が続いています。また、潰瘍性大腸炎患者数は日本の指定難病の中では最多で、世界でも米国に次ぐ2位の患者数です。20・30歳代に発症者が多く、慢性の経過をたどるため、就学、就労、結婚、妊娠といったライフイベントに大きな影響を与えます。

久松教授は、「非常に歴史のある研究班であり、責任の大きさを実感しています。日本の炎症性腸疾患診療の発展と患者さんのために、オールジャパン体制で取り組んでいきたい」と抱負を語っています。



消化器内科
久松 理一 教授

利便性向上をめざして 病院ホームページをリニューアル

5月に病院ホームページをリニューアルしました。

5年ぶりとなる改定では、患者さんを中心とした閲覧者の利便性を向上させるとともに、スマートフォンでも使いやすくしています。

また、新コンテンツで病院の強みや魅力、最新の情報を発信していきます。

「受診、入院の案内」など各項目の整備は今後も引き続き進めていきます。



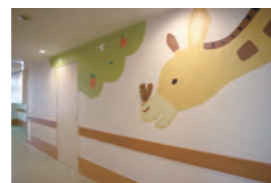
<https://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>



武蔵野の杜をコンセプトに小児病棟をリニューアル

より快適な入院・診療環境を患者さんに提供するため、1月に小児病棟を第1病棟3階から第1病棟4階にリニューアル移転しました。

「武蔵野の杜にある病院」をコンセプトにした新病棟は、パステルカラーでかわいらしい動物たちが壁や天井、診察室の扉などに描かれています。さらにプレイルームなどに木をふんだんに使い、安らぎを感じる空間を設計しました。また、病棟内の処置室やトイレの数を増やしたり、診察を行う外来棟とフロアを直結させることで、利便性を高めました。



文科省補助事業 「地(知)の拠点」～事業の完了と活動の発展にむけて～

2013年度の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」採択から始まった、地域連携に関する文部科学省補助施策の取り組みは、2015年度からは「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」への参加となり、2019年度に完了しました。

この補助事業が本学にもたらした成果は大きく2つあると考えています。一つ目は、「地域に根ざした大学」としての存在感です。井の頭キャンパスの設置も大きく影響しましたが、本学の地域連携活動が注目される機会が増え、私立大学等改革総合支援事業の選定にも大きく影響しています。もう一つが「教育の地域志向化」です。全学年1年次必修科目『地域と大学』の設置に始まり、各学部において連携自治体を舞台とした教育活動が定着してきました。そして現在では、学部間連携という新たな展開を見せつつあります。

新型コロナウイルスという新たな社会的課題が生じた中で、医療・保健分野を母体とした総合大学である本学の地域連携活動の重要性はさらに高まっていくと想定されます。COC大学として、今後も多様な取り組みを展開していきたいと考えています。

(地域交流推進室)



岩手県の医療施設で実施した保健学部理学療法学科1年生の見学実習

文科省補助事業 「大学教育再生加速プログラム テーマⅢ(高大接続)」～6年間の活動について～

本事業は2014年度に採択され、「日英中トライリンガル育成のための高大接続」をテーマに、2019年度までの6年間活動を行ってきました。

ライティングセンターの設置では、特任講師と学生ピアチューターが常駐し、希望する高校生や在學生に英文の指導を行ってきました。学習の習熟度等を数値で可視化するルーブリックを独自に開発し、外国語学部のAO入試に導入しました。また、高校生が入学前に大学の授業を履修することで単位認定が可能となるアドバンストプレースメント(AP)を開始しています。さらに、桜美林大学、創価大学、共愛学園前橋国際大学とAPの単位互換協定を締結し、4大学間での単位認定の仕組みを構築しました。

さらに、本学と連携高校の教職員が意見交換を行う杏林APラウンドテーブルを定期的に開催することで、大学の授業の特別聴講など高校のニーズを汲み取り、様々な施策に生かしてきました。高校生への日・英・中国語の学習機会として、春休みに日英中トライリンガルキャンプを実施し、1泊2日で在學生と交流しながら、プレゼンテーションをするなどの取り組みも行ってきました。

終了となった本事業は、今後も可能な範囲で継続していく予定です。

(高大接続推進室)



日英中トライリンガルキャンプの様子

医学部付属看護専門学校 閉校

看護専門学校は1971年に杏林大学付属高等看護学校として誕生し、1979年に医学部付属看護専門学校と改称されました。開校以来、豊かな人間性をもつ看護のプロフェッショナルを育てる教育を行ってきましたが、2020年3月をもって閉校となりました。

最終年度の92名を含め約4,000名の卒業生を輩出し、それぞれが様々な分野で活躍しています。



▲戴帽式



高等看護学校の校舎▶

新校地の整備進む

付属病院北側の新校地で、現在新しい体育館の建設工事を進めています。
また、隣接して建設される医学部講義棟の基本構想もほぼまとまり、三鷹キャンパスの整備が進んでいます。



講義棟イメージ



体育館工事開始から約5ヶ月(2020年4月)



体育館 館内イメージ



杏林大学三鷹キャンパス

新医学部講義棟 ● 免震構造 ● 地上6階建て ● 延べ床面積:約10,050㎡

周辺の緑とも調和した重厚で落ち着いた雰囲気を出し外観が計画されています。
国内外の先進的な医学部施設を参考に、学生や教員のニーズを取り入れ、使いやすい機能性も備えます。
創造的な学習活動や知的探究の場となるラーニングセンターと呼ばれる学習エリアなども検討しています。
今後、具体的な施設の内容やスペース配分などを検討することとしています。

体育館 ● 地上3階建て ● 延べ床面積:約5,570㎡

1階はバスケットボールコート2面のアリーナ、2階には柔道場、剣道場、スポーツジムなどを配置します。
3階は観覧席で、式典時には3階に備え付けられた収納型の座席と1階座席をあわせて約3,000人が収容できます。
2019年11月に着工し、2021年春完成をめざしています。

新型コロナウイルス学生支援・医療環境整備 ご支援・ご寄付のお願い

杏林大学は建学の精神である「真善美の探究」を通じて人にために尽くすことのできる多くの人材を育成して参りました。この間、創立50周年の周年事業として実現した井の頭キャンパスへの移転で、保健学部、総合政策学部そして外国学部の教育環境は大きく改善いたしました。ひとえに皆様のご尽力とご厚情の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。
本学では、次の50年に向けて医学部を中心に三鷹キャンパスの環境整備を進めてまいります。ぜひお力添えを頂きたいと存じます。

一方、付属病院では現在、新型コロナウイルスに打ち勝つために職員一丸となって奮闘しております。大学でも経済的に厳しい状況に追い込まれる学生が増えてきました。こうした学生達や病院の最前線で闘っている医療従事者などにもご支援、ご協力を賜りたくお願いする次第です。

私共の目標は、社会に必要とされ人の役に立つ人材育成に力を注ぎ、本学を国際的な総合大学に発展させることにあります。将来に向けた教育環境充実への皆様のご支援が必ずこの目標達成に結びつくことをお約束して、私のご挨拶と致します。何卒、よろしくお願い申し上げます。

副理事長・募金委員会代表 松田 剛明

○寄付の種類 (その他の寄付については、杏林大学ホームページ「ご支援・ご寄付のお願い」でご案内しています)

杏林大学教育研究募金



● 学生に対する経済的支援など

保護者の経済的な状況が急変し、学業継続の意思があるにもかかわらず、修学の継続が極めて困難になったものを対象とする杏林大学緊急時奨学金などにあてられます。

● 教育研究環境の整備など

キャンパスの整備や実習施設等の整備など、臨床の場に臨む学生やグローバル人材を目指す学生などが使いやすい環境にします。

医学部付属病院へのご寄付



付属病院を取り巻く昨今の情勢は年々厳しさを増し、新型コロナウイルス対策では、当院の医療従事者は最前線で闘っております。ご支援いただきましたご寄付は医療設備の充実、環境整備の充実、並びにスタッフへの支援などにあてられます。

○税制上の優遇措置

杏林大学への寄付金については、個人、法人それぞれで税制上の優遇措置を受けることができます。
詳しい内容は、以下のアドレスまたはQRコードからご覧いただけます。

<https://www.kyorin-u.ac.jp/kifu/>



お問い合わせ：杏林学園募金事務局(経理課内)
住所 〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 TEL.0422-47-3226





あんず Anzu 2020 | 春 |

学校法人 杏林学園

2020年6月1日発行

発行 学校法人 杏林学園

企画・編集 広報・企画調査室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL.0422-44-0611